

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（A）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17254003
 研究課題名（和文） 保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究
 —現代社会に適合した多様な再利用の手法に関する研究—
 研究課題名（英文） “Study on the adaptive reuse of historic buildings
 — Diversity of reuse methods appropriate to today’s society”
 研究代表者
 齋藤 英俊（SAITO HIDETOSHI）
 筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
 研究者番号：30271589

研究成果の概要：

歴史的建造物の多様で魅力的な、かつ、経営的にも成功している活用事例の多いドイツ、フランス、イギリス、イタリア、スペイン、チェコにおいて、主に産業遺産を中心に調査分析し、個々の事例において、関係した政府機関の専門官、建築家、所有者、経営者等からのヒヤリングを行い、また、歴史資料や図面等を収集し、活用やそれに伴う改造等の評価や効果に関して考察した。さらに、研究成果を広く紹介するため、各国から専門家を招へいして研究会を4回開催し、その内容を報告書として出版した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	11,100,000	3,330,000	14,430,000
2006年度	7,200,000	2,160,000	9,360,000
2007年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
2008年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
年度			
総計	33,100,000	9,930,000	43,030,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：(1)歴史的建造物 (2)文化財 (3)保存と活用 (4)多様な再利用 (5)ヨーロッパ

1. 研究開始当初の背景

「文化財保護法」においては、文化財の保存と共にその活用も目的であり、「所有者はその文化的活用を努めなければならない」とある。しかしながら、重要文化財に指定された歴史的建造物の活用状況を見ると、本来の用途を継続している神社や寺院建築以外では、その多くは単なる公開施設や資料館としての活用にとどまり、ヨーロッパ諸国に見られるような多様で魅力的な再利用の事例はき

わめて少ない。

こうした状況を受けて、文化庁文化財保護審議会（当時）のもとに設置された委員会の報告書（1994）では、保護対象の拡大、近代の文化遺産の保護などとともに、文化財の活用推進の必要性が指摘されている。文化庁建造物課では、1990年から製鉄所や鉱山、駅舎、トンネル、橋梁、燈台、運河など、近代的手法・技術で造られた産業・交通・土木に関わる構造物を「近代化遺産」と名付け、保護

すべき新しい分野として本格的に取り組んでいる。また、1996年には文化財保護法を改正し、多くの歴史的建造物を積極的に活用することにより地域の歴史的環境に貢献することを目的とした「文化財登録制度」を新設した。近代化遺産としては、発電所施設やダム、鉄道施設、造船施設など大規模施設の重要文化財指定が進み、また、登録文化財も1996年からの8年間で都市部にある近代建築を中心に約4,300件が登録されており、それらの魅力ある活用がますます重要な課題となっている。

そのため、文化庁建造物課では、保存計画策定指針の作成や活用事例集の刊行、活用に伴う諸設備費や改装費への補助制度導入など、活用促進のための施策を積極的に実施している。しかしながら、まだまだ、参考にすべき魅力的な活用事例に乏しく、また、歴史的建造物の文化的・歴史的価値や立地・形態・構造などを勘案して適切な活用法を提言できる専門家も育っていない。

2. 研究の目的

本研究は、i) 歴史的建造物の多様で魅力的な、かつ、経営的にも成功している活用事例の多いドイツ、フランス、イギリス、イタリアを中心とするヨーロッパ諸国を対象とし、ii) 各国における規制のあり方と優遇税制や助成金等の誘導政策、専門家の担う役割とそれに必要な能力や知識の内容を調査分析し、iii) 具体的活用事例について、用途決定に至った経緯、現行法規等への適合の工夫、活用のための増改築・機器設備の更新・増設の適否などの研究項目を設定して調査・分析することにより、iv) この分野における学問的進展を図り、また、v) 研究の成果を日本における文化財保護施策および都市再生・景観形成施策等へ反映させ、vi) 多様で魅力的な活用事例を広く紹介することにより、日本における歴史的建造物の多様で魅力的な活用を促進させようとするものである。

日本における歴史的建造物、特に本来の用途を失っている近代建築の活用・再利用の促進は、①都市の隠れていた魅力を掘り起こし、地域住民にアイデンティティを与え、②文化遺産の保存への動機付けを強化し、また、③文化遺産が持つ価値を多くの人々が享受する機会を増大させることになり、社会的意義はきわめて大きい。

3. 研究の方法

本研究は、歴史的建造物の多様で魅力的、

かつ、経営的にも成功している活用事例に関して、ヨーロッパ諸国を対象として調査・研究を行うが、なかでも、文化財保護では主導的立場にあり、多様で魅力的な事例が多いドイツ、フランス、イギリス、イタリアを主要な対象国とする。研究目的を達成するための方法は、i) 各国における規制のあり方と優遇税制や助成金等の誘導政策など、政策の手法とその運用実態を調査し、また、具体的活用事例について、ii) 歴史的建造物の保存、再生、再活用などに関わる建築家などの専門家が、どのように、また、どこまで関与しているか、また、そのためにはどのような能力や知識を必要としているのか、iii) 用途決定に至った経緯、現行法規等への適合の工夫、活用のための増改築・機器設備の更新・増設の適否、iv) 活用は、経営的にも成功しているのか否か、地域振興や環境改善等の側面からどのように評価されているのか、などに関して調査・分析する。

i) に関しては、政府、または州政府、地方自治体等の担当部局における資料収集と責任者等へのヒヤリングと、個々の活用事例に適用された実態を調査・分析して行う。ii) に関しては、活用事例に関与した建築家などの専門家と所有者へのヒヤリングによって行う。iii) に関しては、個々の活用事例現場において、研究代表者・分担者がそれぞれの専門的立場から調査・評価すると共に、関与した建築家等専門家、所有者、テナント、居住者等からの情報提供とヒヤリングによって行う。iv) に関しては、所有者、テナント、居住者等へのヒヤリング、地方自治体関係部局、地域住民、環境保護・景観保護団体等へのヒヤリングによって行う。

保存を前提とした歴史的建造物の活用に関しては、以下の項目が適切に行われる必要がある。したがって、iii) の活用事例現場においては、これらの項目について調査・分析・評価する。

- ①建造物の歴史や性格、規模、構造、意匠に適合した利用
- ②地域の経済状況、ニーズに適合した利用
- ③現代の建築法規等の基準に適合するための基礎・軸部・小屋組などの構造的な補強
- ④現代の消防法等の安全基準に適合するための避難階段、開口部、防火区画などの新設、増設、改造
- ⑤新用途のための内部間仕切、階段、開口部、内外装などの改造、改装
- ⑥新用途のための増築
- ⑦新用途のための設備機器の更新、増設

⑧再利用の建造物と改築・改装・増築部分との様式・意匠の調和

⑨改築・増築後の建造物と町並み、周辺環境との調和

⑩管理運営と安全性の確保

以上のほかに、歴史的建造物を修復し、復原する行為に関し、以下の項目が適切でなければならない。これらの項目についても併せて調査・分析・評価の対象とする。

⑪修復工事の内容の妥当性

⑫修復工事に伴う復原の妥当性

⑬修復工事に伴う各種調査の妥当性

⑭修復工事に関わる資料の作成と公表

⑮建造物の歴史的価値・沿革・修理内容等に関する説明展示

上記の調査は、現地における実測・写真撮影を伴うが、必要に応じて、歴史的建造物の当初図面等の設計図書、古写真、増改築や構造補強に関わる設計書・図面等の資料の収集も行う。

4. 研究成果

(1) 平成 17 年度は下記の調査・研究・成果発表を行った。

①9月に齋藤、鳥海ほか研究協力者3名で、イギリスにおいて、スウィンドンのイングリッシュ・ヘリテイジ資料センター、世界遺産「ブレナボン産業景観」、マンチェスターの産業科学博物館、世界遺産「リバプール海商都市」等の産業遺産の保存活用事例の調査を行った。

②1月にイギリスよりイングリッシュ・ヘリテイジ産業遺産部門主任キース・ファルコナー氏、世界遺産「ブレナボン産業景観」プロジェクト責任者ジョン・ロジャー氏、リバプール市世界遺産担当ジョン・ヒンチリフ氏の3名の産業遺産に関する専門家を招聘し、「イギリスにおける産業遺産の保存と活用－保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究」(東京都台東区)、「イギリスの産業遺産と富岡製糸場」(群馬県前橋市)の2つの講演会を開催した。また、その内容について報告書『イギリスにおける産業遺産の保存と活用－保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究』を作成した。

③1月に鳥海ほか研究協力者1名で、フランスにおいて、来年度の調査のための事前調査と資料収集を行った。

④2月に齋藤、宗田、鳥海ほか研究協力者1名で、イタリアにおいて、テルニ市の旧小麦製粉工場、パピーニャ&ガーレット発電所、バイアーノ市の紡績工場、サン・シルベスト

ロ鉱山博物館、ローマ市のチェントラーレ・モンテマルティーニ博物館の調査。産業遺産の調査および活用に関する研究を行っているICSIM研究所においてファリーニローマ大学教授、研究所職員および日本からの調査参加者による「産業考古学の保存と活用」に関するセミナーを開催した。

⑤3月に木村ほか研究協力者2名で、福岡県大牟田市と熊本県荒尾市にまたがる三井三池炭鉱施設(万田坑、宮原坑、三池港等)の産業遺産の調査をおこない、福岡県、大牟田市、荒尾市の担当者や地元のNPOの出席による研究会において、ドイツ、イタリア、イギリスの産業遺産の保存活用事例の紹介を行った。

(2) 平成 18 年度は下記の調査・研究・成果発表を行った。

①5月に研究代表者・分担者・協力者8名による研究会を東京において開催し、平成 17 年度の研究成果の発表、18 年度の研究体制、調査研究計画の策定を行った。

②9月に研究協力者1名が、保存問題が検討されている神戸市水道局所管の千苧水源地水道施設の現地調査および資料収集と写真撮影を行った。

③12-1月の間、日高が、イタリア・ローマ市においてイタリア国内の文化遺産の活用状況に関する資料収集を行った。

④1月に木村ほか研究協力者2名で、ドイツのルール工業地帯にある関税同盟炭鉱第十二堅坑施設、デュイスブルグ・ノルト景観公園(旧マイダーリッヒ製鉄所)デュイスブルグ内陸港の再開発事業、関税同盟炭鉱第二／四堅坑施設など、産業遺産を保存しながら活用している事例の調査および資料収集と写真撮影を行った。

⑤1月に木村(別途予算)ほか研究協力者2名で、秋田県小坂町に所在する小坂鉱山施設およびその関連施設を調査し、それらの保存状況と公開・活用に関する調査および資料収集と写真撮影を行った。

⑥2-3月に齋藤、宗田、稲葉(別途予算)ほか研究協力者1名で、スペイン・バルセロナ市郊外タサラ市の織物工場関係施設の活用事例、イタリア・トリノ市の自動車メーカー本社ビル、縫製工場の活用事例、ジェノバ市歴史的港湾施設の活用事例などの調査および資料収集と写真撮影を行った。

⑦3月に三宅が、イタリア・ジェノバ市の上記調査に参加した後、フランス・パルトーネ市、サン・トロペ市、サン・ナゼール市、グラント市、レンヌ市等において、産業遺産、歴史地区の保存と活用に関する事例調査お

よび資料収集と写真撮影を行った。

(3) 平成19年度は下記の調査・研究・成果発表を行った。

- ①6月に研究代表者・分担者・協力者による研究会を東京において開催し、平成18年度の研究成果の発表、19年度の研究体制、調査研究計画の策定を行った。
- ②7-8月に宗田が、イタリア・ローマにおいてイタリア国内の文化遺産の活用状況に関する資料収集を行った。
- ③9月に研究協力者1名がチェコ・プラハで開催された産業遺産の保存活用に関する国際シンポジウムに参加、現地の産業遺産保存について事例調査と資料収集を行った。
- ④9月-10月に斎藤、稲葉、ほか研究協力者3名で、ドイツ・ベルリンのハンブルグ駅を転用したベルリン現代美術館、ドイツ連邦議会議事堂等の活用事例の調査と、旧ヴィルダウ機関車工場を転用した大学の活用事例と、コトブス近郊の旧炭鉱や旧鉄工所の活用と環境の再生を目的としたIBAによる大規模プロジェクトをはじめとする旧東ドイツ地域の産業遺産を中心とした文化財の保存と活用事例の調査と資料収集、関係者との意見交換を行った。
- ⑤10月に斎藤、三宅、鳥海、ほか研究協力者1名で、フランス・エクスアンプロバンスのマッチ工場を転用した図書館、マルセイユのタバコ工場を転用した文化財研究所、パリの空気圧縮工場を転用した大学施設などの活用事例の調査と資料収集、関係者との意見交換を行った。
- ⑥3月にフランスからジェラルド・グダル氏（フランス文化省建築・文化財局歴史的モニュメント総合監査官）とクリスティーン・アヴェラン氏（ルベ市都市計画課技官）を招へいし、京都、美山、舞鶴、富岡、東京都内の歴史的建造物の保存、活用事例を調査し、現地関係者とも意見交換を行った。さらにフランス農家協会のトニー・マルシャル氏（別途予算）を加えて、慶応大学三田キャンパスにおいて研究会「フランスに於ける文化財建造物の保存・活用と防災-消防法規との技術」を開催し、参加者と歴史的建造物の防災に関する問題などについて討議を行った。さらに、その内容の詳細は、報告書『フランスに於ける歴史的建造物の保存と活用-保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究』として公表した。

(4) 平成20年度は下記の調査・研究・成果発表を行った。

①7月に斎藤ほか連携研究者・研究協力者5名で、東京において研究会を開催し、2007年に実施したドイツ・フランスにおける調査の成果の纏め（斎藤）、京都における観光動向と京町家の活用状況（宗田）、2007年に実施したチェコにおける産業遺産の保存と活用状況の報告（研究協力者）を行った。また、2008年度の調査・研究活動と調査報告所の内容と執筆担当者について協議した。

②10月にドイツよりレオ・シュミット氏（ブランデンブルグ工科大学コトブス校建築保存学部教授）を迎え、「保存と改修：歴史的建造物の転用におけるデザインの可能性」と題する講演会を開催し、その後、参加者を交えて、文化遺産の保存と活用に関する討論を行った。さらにその内容について、報告書『ドイツにおける歴史的建造物の保存と活用-保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究』を作成した。

③1月に斎藤、鳥海ほか1名で、フランスにおいて、パンテオン（パリ）の修理工事現場、ランス大聖堂修理工事現場等を訪問し、フランスにおける歴史的建造物の修復と公開等活用の問題点に関し、修復担当者と意見交換した。また、近代建築特有の鉄筋コンクリート造建造物の修理現場を訪問し、さらに、この種の修理に多くの経験を有する技術コンサルタント及び建設会社の担当者からフランスにおける事例の説明を受け、意見交換を行った。

④2月にドイツからジークフリート・エンダース氏（ヘッセン州立記念物保存局主任調査官）及び、フランスからダニエル・ルフェーヴル氏（パリ地区担当歴史的モニュメント主任建築家）を招聘し、国立西洋美術館本館、富岡製糸場等を案内し、近代建築の保存・活用状況に関して意見交換を行った。また、この2名に北河大次郎氏（文化庁文化財部参事官付文化財調査官）を加えて、「鉄筋コンクリート造建造物の保存と活用-日本、フランス、ドイツの事例-」と題する講演会を行い、参加者も含めて、鉄筋コンクリート造の保存問題に関して討論を行った。さらに、その内容について、報告書『鉄筋コンクリート造建造物の保存と活用-日本、フランス、ドイツの事例-』を作成した。

⑤3月に斎藤及び研究協力者2名で、群馬県桐生市の織物工場群等の産業遺産の保存状況に関して調査を行った。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 3 件)

①中野茂夫・齋藤英俊・中島伸「シャトーカミヤの建設経緯と建築的特色」、『日本建築学会計画系論文集』第 73 巻 629 号、pp.1617-1624、2008 年、査読有

②齋藤英俊「神谷伝兵衛とシャトーカミヤ」、『月刊文化財』第 538 巻、pp. 8-11、2008 年、査読無

③鳥海基樹「フランスに於ける建築・都市資本の再文化化政策」、『文化経済学』第 6 巻第 2 号、pp21-36、2008 年、査読有

〔図書〕(計 5 件)

①齋藤英俊、平賀あまな編『鉄筋コンクリート造建造物の保存と活用ー日本、フランス、ドイツの事例ー』筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻・齋藤英俊研究室、31頁、2009年2月

②小林克弘、三田村哲哉、橘高義典、鳥海基樹『世界のコンバージョン建築』、鹿島出版会、182頁、2008年

③齋藤英俊、平賀あまな、岡野雅枝編『ドイツにおける歴史的建造物の保存と活用ー保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究』筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻・齋藤英俊研究室、16頁、2008年10月

④齋藤英俊、鳥海基樹、平賀あまな編『フランスに於ける歴史的建造物の保存と活用ー保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究』筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻・齋藤英俊研究室、15頁、2008年3月

⑤齋藤英俊、平賀あまな編『イギリスにおける産業遺産の保存と活用ー保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究』筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻・齋藤英俊研究室、23頁、2006年3月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

①齋藤 英俊 (SAITO HIDETOSHI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：30271589

(2) 研究分担者

①日高 健一郎 (HIDAKA KENICHIRO)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授

研究者番号：30144215

②稲葉 信子 (INABA NOBUKO)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
研究者番号：40194352

③大和 智 (YAMATO SATOSHI)
(平成 18 年度～平成 19 年度)
元筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授
当時研究者番号：80191352
現職：文化庁文化財部参事官

(3) 連携研究者

①三宅 理一 (MIYAKE RIICHI)
慶応義塾大学・大学院政策メディア研究科・教授

研究者番号：70157618

②木村 勉 (KIMURA TSUTOMU)
長岡造形大学・造形学部・教授
研究者番号：60280608

③宗田 好史 (MUNETA YOSHIFUMI)
京都府立大学・人間環境学部・准教授
研究者番号：70254323

④鳥海 基樹 (TORIUMI MOTOKI)
首都大学東京・大学院工学系研究科・准教授
研究者番号：20343395

(4) 研究協力者

①大和 智 (YAMATO SATOSHI)
文化庁文化財部参事官

②巖 文成 (IWAO HUMINARI)
国土交通省関東地方整備局営繕部建築課長

③長尾 充 (NAGAO MITURU)
文化庁文化財部参事官付文化財調査官

④北河 大次郎 (KITAGAWA DAIJIRO)
文化庁文化財部参事官付文化財調査官

⑤ウーゴ ミズコ (UGO MIZUKO)
東京文化財研究所文化遺産国際協力センター
一客員研究員